

慢性腎臓病に集約的治療

やまなし

医療最前線

県立中央病院から

《 21 》



若杉 正清
腎臓内科科長

成人の8人に1人が患者とされ、「新たな国民病」ともいわれる慢性腎臓病（CKD）。尿タンパクなどの腎臓の異常や腎機能の低下が3カ月以上続いている状態のことで、放っておくと腎不全に進んでしまうばかりでなく、心筋梗塞や脳卒中などの心血管疾患を合併する危険性が高い。

県立中央病院腎臓内科科長の若杉正清医師によると、高血圧や糖尿病、肥満などの生活習慣病がCKDを引き起こしやすいことが分かっており、「集約的な

診療チームで透析予防

CKDの予防・治療

病期（ステージ）

第1期 第2期 第3期 第4期 第5期

GFR 90 60 30 15

生活習慣 ← 禁煙・肥満を解消（BMI 25未満） →

食事管理 ← 減塩 6g/日未満 →

たんぱく質制限

カリウム制限

血圧管理 ← 130/80mmHg以下 →

血糖管理 ← HbA1c 6.9%未満（NGSP） →

脂質管理 ← LDL コレステロール 120mg/dL 未満 →

治療」を行うことで末期の腎不全への進行を遅らせることができるという。

集約的な治療とは、糖尿病や高血圧、脂質異常などの原因となる病気の治療を行い、減塩やタンパク質制限などの食事療法、禁煙や肥満など生活習慣の改善と、効果の認められているあらゆる治療を行うこと。

厳格な血糖や血圧のコントロールが必要で、特に高血圧の治療では腎臓を守る働きがあるACE阻害薬（アンジオテンシン変換酵素阻害薬）やARB（アンジオテンシン受容体拮抗薬）の使用が有効という。

県立中央病院では集約的な治療を行うための取り組みとして、患者向けの腎臓病教室を月1回開催。専門医や管理栄養士、看護師、臨床検査技師、薬剤師、ソーシャルワーカーがそれぞれ

れ専門分野について講義を行っている。短期入院で検査、治療、教育・指導を行う「腎臓病教育入院」も実施。「すこやか腎臓手帳」を用いて、かかりつけ医と腎臓専門医が病連携して情報を共有。2人主治医制で患者を支えている。

山梨県は透析を始める人口あたりの患者数が全国平均より多く、特に糖尿病性腎症で透析を始める人の割合が高いのが特徴。このため、同病院は新たに専門医や看護師、栄養士らによる「糖尿病透析予防診療チーム」での外来診療を年内にもスタートさせる計画だ。

若杉医師は「早期に適切な治療を行えば透析への進行を抑え、心筋梗塞や脳卒中などの重大な合併症を減らすことができる。患者さんも自己管理に積極的に取り組んでほしい」と話している。

第2、4金曜日に掲載します